# 「日本の価値再発見、ネット小説や眼鏡も商機」　日本ブランド奮戦記⑤

2026/10/10 05:00 日経ヴェリタス　2468文字

「JAPAN銘柄」が海外で成功するカギを識者はどう見ているのか。ブラックロック・ジャパンで「ブラックロック日本小型株オープン」の運用を担当する高山博樹ディレクターとセブン―イレブン・ジャパンやファミリーマートで取締役を務め、韓国セブン―イレブンの再建にも携わった本多コンサルティングの本多利範社長に聞いた。

## 日本文化を再評価　「リミックスジャパン」時代到来
## ブラックロック・ジャパンの高山博樹ディレクター

世界の消費者が日本の価値を再発見する動きが広がっている。例えば英国では日本のカツカレーがブームだ。音楽では1970年代に日本で発売された「真夜中のドア～Stay With Me」がカバーされ海外で人気を集めた。既存の日本文化を再評価し、新しいプロダクトを生み出す「リミックスジャパン」が起きたとみている。

背景には複合的な要因がある。まず諸外国の所得水準が過去に比べ上昇し消費意欲が高まっている。ＳＮＳの普及で世界に日本を発信できるようになったことも大きい。人工知能（ＡＩ）によって言語の壁も取り払われたことも追い風だ。商品力を高めデフレ経済下を生き抜いた日本企業は外国人にとってコストパフォーマンスがいい存在とみられている。

日本企業が海外展開しやすい環境となったが、戦略を持っておかなければ世界の競合にシェアを奪われる。抹茶が良い例だ。抹茶は欧米をはじめとした世界各国で人気の商材だ。中国の業界団体による推計では、世界生産量の７割を中国勢が握る。

日本はかつて抹茶ではなく日本茶の海外販売を強化していた。日本は世界的な抹茶需要の急拡大を十分に予測できなかった可能性がある。現地の需要を把握しローカライズする力が必要だ。世界展開する上では供給能力を高めることも重要になる。

中小型株にも有望な銘柄が多い。アルファポリス（9467）は投稿サイトで発掘した小説や漫画などを書籍化する。言語の壁がなくなった今、日本の小説が海外で評価され市場が急拡大する可能性を秘める。 アニメ制作会社を傘下に持つＩＧポート（3791）は海外での配信や商品化で収益を拡大している。

アパレル業界では2025年に東証グロース市場に上場したＨＵＭＡＮ　ＭＡＤＥ（456A）が代表例だ。「金子眼鏡」を手掛けるＪａｐａｎ　Ｅｙｅｗｅａｒ　Ｈｏｌｄｉｎｇｓ（5889）は高価格帯でありながら日本の職人の技術力が評価され外国人向けの売上高比率は３割を超えている。

足元の株式市場は金利上昇にさらされている。ＡＩ関連企業の業績は好調だが、バリュエーション（投資評価）面がより評価される展開を予想する。ＡＩ以外でも業績が好調な銘柄が選好される地合いが続くとみている。海外展開が奏功した企業が再評価される可能性がある。

高山博樹（たかやま・ひろき）「ブラックロック日本小型株オープン」の運用を担当。投資テーマや業績予想モデルなどの分析と、企業面談を通した評価で有望な中小型銘柄を探し出す

許諾番号NK004991　日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。